

「おうやまい」

11月中のご本山及び地域の各寺院の報恩講も終わり、12月に入り、私共郡上の田舎では、お内仏の報恩講である「おうやまい」(お取り越し)が各門徒さん宅や集会施設にてお勤めされます。参加者全員で正信偈、念佛、和讃の後に、「聖人一流」のお文様を拝読されるのが常となっています。これ程短くて、浄土真宗の意味を残すところなく、明らかにしてくださったものは、他には無いと思います。はじめに「聖人一流の御勸化のおもむきは」とありますが、「親鸞聖人はじめ歴代の御門首、先輩方がお勧めくださった中味は、信心は」ということでありましょう。29歳で比叡の山を降りられた聖人が、法然上人のもとに通われて遇われたものは、「どんなことがあっても、あなたを捨てることがない」と誓ってくださった阿弥陀佛の本願であり、長い迷いの闇から出られたのでありましょう。何とか自分の力で、何とか、何とか…ともがき抜いてこられた聖人が、抱きしめられ、支えてくださっていた阿弥陀如来の大きなお慈悲に出遇ったとき、自分の行為がいかに小さなものであるのかということ、嫌という程思い知らされたことでありましょう。親鸞聖人が法然上人の導きによって遇われたものは、あたたかい真実、すなわち阿弥陀如来の本願でありました。このお文様で、蓮如上人は、信心とは「もろもろの雑行をなげすてて一心に弥陀に帰命す」ることであると、明らかにしてくださいました。そんなことを思い起こしながら、ご門徒さん宅での「おうやまい」にて、「聖人一流」のお文様を今年もいただいております。